

## 令和元年度実施施策に係る政策評価書

(文R1-7-2)

施策名	科学技術の国際活動の戦略的推進		部局名	科学技術・学術政策局 科学技術・学術戦略官(国際担当) 付		政策評価実施時期	令和2年9月
施策の概要	国際的な人材・研究ネットワークの強化、戦略的な国際共同研究や交流の推進等に取り組むとともに、関係府省等との有機的な連携を図り、科学技術のための外交を推進することにより、我が国の科学技術水準の一層の向上を図る。						
施策に関する内閣の重要施策(主なもの)	第5期科学技術基本計画 第5章 など						
<b>施策の予算額・執行額</b> (政策評価調書に記載する額)  予算の状況【千円】 上段：単独施策に係る予算 下段：複数施策に係る予算	区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度要求額		
	当初予算	259,856 ほか復興庁一括計上分 0	260,634 ほか復興庁一括計上分 0	258,167 ほか復興庁一括計上分 0	307,948 ほか復興庁一括計上分 0		
		<127,554,547> ほか復興庁一括計上分 <0>	<128,704,551> ほか復興庁一括計上分 <0>	<127,028,245> ほか復興庁一括計上分 <0>	<146,751,648> ほか復興庁一括計上分 <0>		
	補正予算	△353 ほか復興庁一括計上分 0	1,094,546 ほか復興庁一括計上分 0	/			
		<205,000> ほか復興庁一括計上分 <0>	<246,827> ほか復興庁一括計上分 <0>				
	繰越し等	0 ほか復興庁一括計上分 0	△1,091,000 ほか復興庁一括計上分 0	/			
		<136,000> ほか復興庁一括計上分 <0>	<3,089,914> ほか復興庁一括計上分 <0>				
	合 計	259,503 ほか復興庁一括計上分 0	264,180 ほか復興庁一括計上分 0	/			
		<127,895,547> ほか復興庁一括計上分 <0>	<132,041,292> ほか復興庁一括計上分 <0>				
	執行額【千円】	221,130 ほか復興庁一括計上分 0	225,456 ほか復興庁一括計上分 0	/			
<127,877,212> ほか復興庁一括計上分 <0>		<131,942,328> ほか復興庁一括計上分 <0>					

達成目標1	国際的な頭脳循環に対応するため、研究者交流等を通じて、優秀な研究者を育成・確保するとともに、国際的な研究ネットワークを構築する。						目標設定の考え方・根拠	優れた人材の国際的な獲得競争が激化し、国際的な頭脳循環が進む中で、我が国の研究者が科学技術の世界最先端の知見に触れ、取り込むことにより、我が国の研究水準の一層の向上を図ることが重要であるため。	
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H25年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
①海外への研究者の派遣者数（中長期）	4,367	4,415	4,363	4,318	4,291	調査予定	5,240	B	<p>・測定指標①の目標達成時期は第5期科学技術基本計画の最終年度である令和2年とした。また、一定の上昇傾向を維持することが望ましいことから、平成25年度の実績値を基準とし、その値の120%を目標として設定した。</p> <p>・H30年度における目標値に対する実績値は80%以上であり、数値を基準にすれば判定は「A」であるが、近年実績値は横ばい傾向であり、かつ基準値を下回っている現状を重く見て、判定は「B」とした。</p> <p>【出典】文部科学省「研究者の交流に関する調査」</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H25年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
②海外からの研究者の受入れ者数（中長期）	11,930	13,137	12,719	13,027	13,172	調査予定	14,316	A	<p>・測定指標②の目標達成時期は第5期科学技術基本計画の最終年度である令和2年とした。また、一定の上昇傾向を維持することが望ましいことから、平成25年度の実績値を基準とし、その値の120%を目標として設定した。</p> <p>【出典】文部科学省「研究者の交流に関する調査」</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	基準	実績					目標	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H29年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年		
③国際共著論文数	27,305	23,739	26,163	27,305	29,047	調査予定	29,047	A	<p>・測定指標③である国際共著論文数は、出版年を基準にカウントされるため年度単位ではなく、年単位で設定している。一定の上昇傾向を維持することが望ましいことから、直近の年の実績値以上を目標値として設定する。ただし、直近の調査結果が判明していないため、平成30年の実績値を仮の目標値と設定している。</p> <p>【出典】文部科学省科学技術・学術政策研究所、「科学技術指標2020」、令和2年8月 等</p>
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			

達成目標2	科学技術外交を活用しながら、先進国から途上国まで途切れずに、相手国・地域に応じた多様で重層的な協力関係の構築を推進する。						目標設定の考え方・根拠	達成目標1で設定している交流やネットワーク構築の促進とともに、2国間、多国間、国・地域、研究分野等あらゆるレベルに応じた共同研究や対話の枠組み等、適切な協力を推進することが、科学技術外交を活用し、我が国の強みを生かしたイノベーション創出のために必要不可欠であるため。	
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H25年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
①戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）において我が国と共同研究を実施した累計国・地域数	10	13	15	15	17	19	前年度を上回る国数	A	・各国との多様な協力関係構築や、我が国がイニシアチブをもった科学技術外交の推進を評価する観点として、国際科学技術共同研究推進事業において我が国と共同研究を実施している国の累計数を指標とした。 【出典】文部科学省調べ
	年度ごとの目標値	11	14	16	16	18			
測定指標	基準値	実績値					目標値	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H25年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
②地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）において我が国と共同研究を実施した累計国数	39	43	46	47	50	51	前年度を上回る国数	A	【出典】文部科学省調べ
	年度ごとの目標値	42	44	47	48	51			
測定指標	基準	実績					目標	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
③国際科学技術センター（ISTC）における文部科学省が支援するレギュラープロジェクト数及びワークショップ数	18	18	15	16	19	15	10以上	A	・施策目標7-2の目標2「科学技術外交を活用しながら、先進国から途上国まで途切れずに、相手国・地域に応じた多様で重層的な協力関係の構築を推進」という観点から、ISTCにおいては我が国の専門家がコーディネーターとしてプロジェクトを主導するプロジェクト・およびワークショップ数を指標とした。また、数値を基準にすると判定は「S」相当であるが、近年の実績の最低値を目標値に設定しているためであり、継続的にISTCの活動に携わっているという実態をふまえれば実質的な判定は「A」相当だと考える。 GSFにおいては、GSFで実施されているプロジェクトの中で、我が国がの専門家が参画し、他の加盟国と協力して地球規模課題の解決に向けた科学技術面の取組について調査・提案を行い、報告書を公表する等、主導的に取り組むプロジェクト数を指標とした。GSFで実施されているプロジェクト数は年によって変動があり、それに応じて実績値も変動するが、GSFに我が国が主導的に参画し、プレゼンスを向上させているという内容をふまえ、判定を「A」とした。 【出典】文部科学省調べ
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			
測定指標	基準	実績					目標	判定	測定指標の選定理由及び目標値（水準・目標年度）の設定の根拠
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
④OECD/GSFにおいて我が国が主体的に参画するプロジェクト数	9	9	7	7	6	5	6以上	A	【出典】文部科学省調べ
	年度ごとの目標値	—	—	—	—	—			

	<p>目標達成度合いの測定結果</p>	<p>相当程度進展あり</p>	<p>測定指標①については基準値を下回っているが、その他の指標については目標が達成されている。</p>
	<p>施策の分析</p>	<p>【必要性】第5期科学技術基本計画（平成28年1月閣議決定）において、科学技術イノベーションの国際活動と科学技術外交の一体的な推進の必要性に言及されていると共に、統合イノベーション戦略2019（令和元年6月閣議決定）において、海外の大学・研究機関等との国際共同研究・国際連携や、それに伴う国際共著論文の増加により、我が国の競争力が高まり、技術の海外展開が加速することが目指すべき理想として掲げられている。その実現のため、国際共同研究・研究者交流を促進する支援等を着実に実施していくことが重要であり、国が先導して国際研究ネットワークの強化を図っていく必要がある。</p> <p>【効率性】本施策にかかる国際会議等への専門家等の派遣については、定期的に省内に照会し案件の把握を行い、必要な派遣に対してのみ支出を行う等、各事業について適切な予算の執行に努めている。</p> <p>【有効性】本施策は、海外への研究者の派遣者数（中長期）が横ばいの傾向にあるものの、おおむね目標に見合った実績を継続的にあげている。</p>	
<p>評価結果</p>	<p>次期目標等への反映の方向性</p>	<p>令和2年度はCOVID-19の世界的な流行を受けて、研究者の海外渡航・招へいの停滞が予想され、国際共同研究のあり方の変容が想定される。オンラインツールの更なる活用による心理的・物理的距離の短縮も相まって、特にすでに関係性が構築されている研究者の間では、COVID-19対策を含む様々な分野について、国際共同研究が加速していくと考えられ、優れた国際共同研究に対してよりスピード感のある支援が必要となる。</p> <p>一方で、研究者の長期間の派遣については、その重要性は変わらない。海外渡航の制限により、特に新たな信頼関係の構築を図る機会が減少し、次世代のリーダーとなる若手研究者の育成をはじめ、我が国の研究力強化に支障をきたすおそれがあり、国際ネットワークの構築・維持・強化に対応する支援、及び、その基盤となる我が国の窓口機能の強化が必要である。さらに渡航制限のため、相手国でのフィールドワークや技術指導、相手国での人材育成等、ハンズオンの取組が実施できず、国際共同研究の実施に影響が出ている。距離・地理的制約等に対応した柔軟な対策・工夫が必要である。</p> <p>引き続き世界の知と多様性を取り込み、我が国の国際競争力の維持・強化に資するため、また世界の研究ネットワークの主要な一角に位置付けられるとともに国際社会における存在感を発揮するために、引き続きグローバルに活躍する若手研究者の育成・確保や海外研さん機会の充実、国際共同研究の抜本的強化等の取組、国際機関との連携等、国際協力に関する取組の一層の充実に努め、科学技術の戦略的な国際展開を図っていく。</p> <p>【評価結果の主な反映状況】（概算要求・税制改正要望・機構定員・法令改正等）</p> <p>&lt;概算要求(R3年度予定)&gt;  国際科学技術センター（継続）  OECDが実施する地球規模課題の解決に向けた取組への拠出（継続）  OECD/GSF分担金（継続）  科学技術国際活動の推進（継続）  科学技術国際活動の推進事務費（継続）  戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）（国立研究開発法人科学技術振興機構運営費交付金に必要な経費）（拡充）  地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）（国立研究開発法人科学技術振興機構運営費交付金に必要な経費）（拡充）  グローバルに活躍する若手研究者の育成等（国立研究開発法人科学技術振興機構運営費交付金に必要な経費・独立行政法人日本学術振興会運営費交付金に必要な経費）（拡充）</p>	
<p>学識経験を有する者の意見</p>	<p>・達成目標1測定指標①について、近年派遣者数が横ばいであり、何か新しい追加施策を実行する必要があるのではないか。また、ウィズコロナで海外渡航の停滞が予想される中、同様の研究者の育成効果が得られるような、ITやデジタルインフラ等々を使った施策を実施し、指標も入れて、評価につなげてはどうか。</p> <p>・達成目標1測定指標③の目標値の設定は海外に実績に比べ甘いのではないかと。目標値を適切なものに見直して欲しい。</p> <p>・達成目標2の測定指標について、測定指標①②は累計数を指標として設定しているのが妥当かどうかを検討すべき。測定指標③は、設定している指標自体が妥当かどうかについて改めて吟味し、測定指標③④ともに目標値の設定についても見直すべき。</p>		